

2016 年度ミニ企画展 第 2 期

すりもの 摺物



No.19

摺物とは・・・

摺物は、注文によって作られた非売品の版画のことをいいます。販売用の浮世絵版画とは異なり、趣味人たちが私的に楽しむために制作し、仲間内で配ったり交換したりしました。そのため、多くの摺物には採算を度外視した、当時最高水準の摺りの技術が施されました。厚手の紙に、絵具をつけずに版木を押し当てて立体感をつける「空摺り」や「きめ出し」、金銀の箔や粉末、銅や真鍮の粉を用いた「金銀摺り」や鉱物粉の雲母を使った「雲母摺り」など、細部には贅を尽くした趣向が込められています。

江戸時代の年賀状？

では、摺物はどのような場面で制作されたのでしょうか。江戸時代中期、俳諧を楽しむ趣味人たちが、自分の句に絵を組み合わせて版画にし、仲間内に配りました。これが摺物の流行のはじまりです。その後、江戸時代後期に、武士階級の趣味人や富裕な町人たちの間で狂歌が流行すると、狂歌摺物がつくれるようになります。狂歌師たちは新作を詠み、それ

に合うように絵師に依頼して絵を描かせ、趣向を競い合っって木版画にしたのです。これらは主に正月に友人間で配付、交換されたので、今年の賀状にも似ているでしょう。

江戸時代のカレンダー？

摺物のなかには、カレンダーのような仕掛けをもつものもあります。江戸時代の暦は現在とは異なる太陰太陽暦で、ひと月を 30 日の月と 29 日の月と決め、30 日の月を「大の月」、29 日の月を「小の月」と呼んでいました。この大小の月の並び方が毎年替わったため、その組み合わせを文字や記号、絵で表して摺物にし、正月用の配り物としました。これを「大小」といい、実用性を備えた摺物といえます。

さまざまな摺物

摺物にはほかに、歌舞伎役者の追善や襲名を目的としたものや、歌舞音曲のお披露目の案内、お店の宣伝を兼ねたものがあり、さまざまな用途で作られました。その多くには、縁起のよい動植物や静物、人物が、当時の人気絵師たちによって描かれており、一般に流通した浮世絵版画に負けない味わいがあります。

このミニ企画展では、町田市立国際版画美術館所蔵の摺物のうち 80 点を、前後期の展示替えで紹介します。当時の高い摺りの技術と、趣味人たちによる知的な遊び心、そしておめでたい吉祥図像あふれる摺物の世界をご堪能ください。

会期

2016 年 6 月 29 日(水)～9 月 22 日(木・祝)

※会期中展示替えがあります。

前期:6 月 29 日(水)～8 月 7 日(日)

後期:8 月 9 日(火)～9 月 22 日(木・祝)

前期展示 作品リスト				
No.	作者名	作品名	制作年	寸法(mm)
1	窪俊満	富士の初日と松竹梅	寛政 11 年(1799)	104×188
2	葛飾北斎	春駒	寛政 10 年(1798)	147×247
3	蹄斎北馬	子供を背負う女と餅搗き	文化期(1804～18)	209×104
4	盈斎北岱	小松引	文化前期(1804～10)	141×179
5	歌川広重	初荷の筆車	文政 4 年(1821)	129×190
6	作者未詳	きれいな扇	寛政 12 年(1800)	121×186
7	北尾重政	梅に短冊	文化 6 年(1809)	220×91
8	七曲亭玉蟻	花鋏	文化期(1804～18)	129×181
9	葛飾北斎	梅林	文政 3～12 年(1820～29)	133×147
10	窪俊満	三宝の鶏と熨斗	享和元年(1801)	136×181
11	窪俊満	十三匹の鼠	文化 13 年(1816)	132×192
12	窪俊満	鶴と亀	文化期(1804～18)	141×137
13	歌川国朝	唐子と羊	弘化 4 年(1847)	102×138
14	一丘	諫鼓	嘉永 2 年(1849)	164×159
15	北尾重政	龍宮の万歳を吹き出す蛤	寛政 8 年(1796)	125×172
16	柳々居辰斎	猪に乗る金太郎	享和 3 年(1803)	121×167
17	窪俊満	かぐや姫	文化 3 年(1806)	205×59
18	作者未詳	お多福	文化 10 年(1813)	171×121
19	喜多武清	布袋と唐子	文政期(1818～30)	200×271
20	葛飾北斎	擣衣連狂歌帖	寛政 9 年(1797)頃	138×181
21	菱川宗理	布袋の根付と印籠	文化元年(1804)	210×131
22	昇亭北寿	年玉の末広	文化 3 年(1806)	122×174
23	窪俊満	名物革同印籠同根付 人形手金唐革・ 菖蒲草	文化前期(1804～10)	132×178
24	作者未詳	鍵袋	文化 7 年(1810)	182×132
25	喜多川月麿	ぶりぶりと福寿草・梅の鉢	文化 13 年(1816)	133×182
26	作者未詳	けん玉と盃	文化 5 年(1808)または 文政 3 年(1820)	105×190
27	菊川英山	算盤と麻の葉模様の布	文政 3 年(1820)	92×130
28	勝川春亭	采配の図	文政 4 年(1821)	196×137
29	柳々居辰斎	扇と富士の掛軸と香案	文政前期(1818～23)	136×110
30	歌川豊国	時享和甲子初春相生町松詠大小	享和 4 年(1804)	183×157

31	歌川豊国	文化十一初朔相生町松夷歌寿大小	文化 11 年(1814)	189×170
32	歌川豊国	五代目市川団十郎の矢の根五郎	文化 7 年(1810)	191×54
33	歌川豊国	三代目市川団之助の挿花	文化 10～14 年(1813～17) 頃	131×187
34	歌川豊国	五側役者摺物 五代目松本幸四郎	文化 13 年(1816)頃	130×180
35	溪斎英泉	声色好	文化 13 年(1816)	123×188
36	歌川豊国	江戸の名物	文政 4 年(1821)	136×185
37	歌川国貞	役者十二月 一月・二月	文政 11 年(1828)頃	186×256
38	歌川国貞	役者十二月 十一月・十二月	文政 11 年(1828)頃	188×256
39	常満	玉吹き	文化 6 年(1809)か	145×100
40	田原舟積	手のなる方へ	寛政 6 年(1794)	150×107
後期展示 作品リスト				
No.	作者名	作品名	制作年	寸法(mm)
1	窪俊満	年始廻りと辻宝引	寛政後期(1794～1801)	140×110
2	葛飾北斎	富士と三保の松原	文化元年(1804)	136×140
3	作者未詳	羽根突き	文化 11 年(1814)	103×135
4	蹄齋北馬	兎の衝立の前の娘と子供	文政 2 年(1819)	132×185
5	勝川春亭	書き初めの富士	文政 2～3 年(1819～20)	222×141
6	窪俊満	福寿草と紙入れ	寛政後期(1794～1801)	131×134
7	北尾重政	梅図	寛政末～享和期(1796～ 1804)	205×98
8	栄松齋長喜	梅下短冊を持つ美人	文化 5 年(1808)	134×181
9	柳々居辰齋	桜に瓢	文政前期(1818～23)	142×193
10	作者未詳	縁先の犬	享和 2 年(1802)	129×180
11	勝川春亭	鶏とひよこと米俵	文化 10 年(1813)	130×179
12	窪俊満	風鎮と白鼠	文化 13 年(1816)	137×137
13	作者未詳	亀と煙管	文政 4 年(1821)	97×137
14	葛飾北斎	お多福の文読み	享和元年(1801)	169×189
15	勝川春英	衝立に富士を描く福祿寿	寛政後期～文化前期 (1796～1810)	164×82
16	歌川豊広	朝比奈の大黒	文化元年(1804)頃	197×249
17	菊川英山	金太郎の豆蒔き	文政初期(1818～20)	91×128
18	靖齋文逋	高砂	文政 10 年(1827)	191×121
19	窪俊満	棟上の柱	寛政 8 年(1796)	127×130
20	作者未詳	鯛糸依摺物 椿の小箱と熨斗、誰袖	享和～文化期(1801～18)	140×189
21	窪俊満	叶福助の年始	文化初期(1804～06)	105×88

22	窪俊満	煙管と煙草入れ	文化前期(1804~10)	132×181
23	柳々居辰斎	馬具	文化7年(1810)	135×179
24	窪俊満	とさかのり	文化期(1804~18)	124×167
25	作者未詳	鯛糸依摺物 淡雪豆腐	文化期(1804~18)	139×137
26	柳々居辰斎	永正年間何曾合 海の道十里にたらず はまくり	文政初期(1818~20)	138×184
27	菊川英山	引札と煙管と煙草入れ	文政3年(1820)	92×129
28	作者未詳	冠棚と扇	文政2~3年(1819~20)	217×142
29	葛飾北斎	馬尽 馬のす	文政5年(1822)	209×178
30	古鶴堂	富士・鷹・茄子の扇面	文政10年(1827)	150×193
31	勝川春英	題午春相生町松嘉例狂哥寿	寛政10年(1798)	193×164
32	歌川豊国	文化七稔相生町松寿詠夷歌大小	文化7年(1810)	199×173
33	窪俊満	雁金五人男	享和2年(1802)	135×188
34	歌川豊国	五側役者摺物 七代目市川団十郎	文化13年(1816)頃	129×176
35	歌川豊国	五側役者摺物 五代目瀬川菊之丞	文化13年(1816)頃	133×184
36	歌川豊清	七代目市川団十郎の矢の根五郎	文政3年(1820)か	204×86
37	歌川国貞	役者十二月 五月・六月	文政11年(1828)頃	185×257
38	歌川国貞	役者十二月 七月・八月	文政11年(1828)頃	187×258
39	葛飾北斎	お多福面と福笹	文化10年(1813)	62×92
40	作者未詳	狂言 恵方詣	享和4年(1804)	149×184

畦地梅太郎コーナー

- 1 日光高原 1940年 木版多色 300×451mm
- 2 虫を追ひかける 1945年頃 木版多色 136×112mm
- 3 山にむかう 1957年 木版多色 412×293mm
- 4 湯き 1980年 木版多色 286×394mm

次回予告

～まちだゆかりの作家～
松本旻

9月24日(土)～12月25日(日)

2016年6月29日発行 町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1 <http://hanga-museum.jp/>